



for DataSpider Cloud 1.2

ユーザーガイド

(Thunderbus for DataSpider Cloud 1.2
User Guide)

ドキュメント・リリース日:2017 年 11 月 28 日 (第一版)



Copyright© 2017 APPRESSO K.K. All rights reserved.

目次

1.	はじめに.....	6
1.1.	注意事項.....	6
1.1.1.	お客様へのお願い.....	6
1.1.2.	商標について.....	6
1.2.	表記について.....	7
1.3.	マークについて.....	8
2.	サポートプラットフォーム・サポートウェブブラウザ.....	9
2.1.	Thunderbus Agent サポートプラットフォーム.....	9
2.2.	Thunderbus Server 管理画面サポートウェブブラウザ.....	9
3.	推奨最小構成.....	10
3.1.	Thunderbus Agent.....	10
4.	Java 実行環境について.....	11
5.	Thunderbus の概要.....	12
5.1.	Thunderbus とは.....	12
5.2.	クイック・スタート・ガイド.....	14
5.2.1.	Thunderbus Server と Thunderbus Agent の接続設定.....	14
5.2.2.	ファイルエージェントを使用する場合.....	16
5.2.3.	HTTP エージェントを使用する場合.....	17
6.	インストールと初期設定.....	18
6.1.	Thunderbus Server の初期設定.....	18
6.1.1.	Thunderbus Server 管理画面を開く.....	18
6.1.2.	Thunderbus Server 管理画面での初期設定.....	18
6.2.	Thunderbus Agent のインストールと初期設定.....	20

6.2.1.	インストーラーの実行	20
6.2.2.	起動	20
6.2.3.	起動の確認と接続	20
6.2.4.	ファイルエージェント設定	22
6.2.5.	HTTP エージェント設定.....	23
6.2.6.	Thunderbus Server 上での接続確認	24
6.3.	Thunderbus Server でのユーザーの作成	25
7.	Thunderbus Server の使用方法	28
7.1.	Thunderbus Server 管理画面.....	28
7.1.1.	管理者ユーザーログイン	28
7.1.2.	エージェント設定	29
7.1.3.	ユーザー設定.....	39
7.1.4.	管理者設定.....	45
7.1.5.	システム情報.....	49
7.1.6.	ユーザーログイン	52
7.2.	ログ.....	54
7.2.1.	ログファイル.....	54
7.3.	ライセンス	55
7.3.1.	ライセンスの仕様	55
7.4.	仕様制限.....	56
7.4.1.	Thunderbus Agent のライブラリ同期について	56
7.4.2.	その他の仕様制限	56
8.	Thunderbus Agent の使用方法	57
8.1.	Thunderbus Agent の起動・停止.....	57

8.1.1.	Thunderbus Agent のプロセス	57
8.1.2.	Thunderbus Agent の起動	57
8.1.3.	Thunderbus Agent の停止	59
8.1.4.	Thunderbus Agent の再起動	59
8.2.	Thunderbus Agent 管理画面	60
8.2.1.	Thunderbus Agent 管理画面の表示	60
8.2.2.	接続/切断ボタン	60
8.2.3.	基本設定	61
8.2.4.	ファイルエージェント設定	65
8.2.5.	HTTP エージェント設定	68
8.3.	プロパティファイル	71
8.3.1.	項目の説明	71
8.3.2.	接続処理の再試行について	73
8.3.3.	ログ設定	74
8.4.	バージョンアップおよび再インストール時の設定の移行	75
8.4.1.	設定のバックアップ	75
8.4.2.	バックアップからの設定の移行	76
8.5.	その他の設定	77
8.5.1.	メモリ割り当て値の変更について	77
8.6.	仕様制限	79
8.6.1.	インストール時の仕様制限	79
8.6.2.	その他の仕様制限	79
9.	DataSpider Thunderbus コネクタの使用方法	80
9.1.	事前準備と初期設定	80

9.1.1.	Thunderbus Server でのユーザーの作成	80
9.1.2.	接続設定.....	81
9.1.3.	接続の確認.....	82
9.2.	グローバルリソースの設定.....	83
9.2.1.	接続設定.....	83
9.2.2.	コンポーネントプールの設定.....	84
9.2.3.	主な例外.....	85
9.3.	使用方法.....	86
9.4.	仕様制限.....	87
9.4.1.	セキュリティについて	87
9.4.2.	操作可能なディレクトリについて.....	87
9.4.3.	その他の仕様制限	87
10.	アンインストール.....	89
10.1.	Thunderbus Agent のアンインストール	89

1. はじめに

本ドキュメントは、Thunderbus for DataSpider Cloud の使用方法について記述します。

1.1. 注意事項

1.1.1. お客様へのお願い

- 本ソフトウェアの著作権は株式会社アプレッソまたはそのライセンサーが所有しています。
- 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟等が発生しましても、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとします。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告無しに変更されることがあります。
- 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社アプレッソまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社アプレッソまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

1.1.2. 商標について

- APPRESSO、APPRESSO ロゴ、アプレッソ、Thunderbus、Thunderbus マーク、サンダーバス、Thunderbus ロゴ、DataSpider、DataSpider マーク、データスパイダー、Cloud ロゴは、株式会社アプレッソの商標または登録商標です。
- APPRESSO、APPRESSO ロゴ、アプレッソ、Thunderbus、Thunderbus マーク、サンダーバス、Thunderbus ロゴ、DataSpider、DataSpider マーク、データスパイダー、Cloud ロゴ以外の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。
- 個々のページに表示・記載されたこれら商標等の複製・転用を禁止致します。

1.2. 表記について

本ドキュメント内の表記は、次の規則に沿って行われています。




- Thunderbus および DataSpider Cloud の画面に表示されるメニュー名・タブ名・プロパティ項目名 および値・ボタン名は[]で囲んで太字で表します。 また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称の無いものは「」で囲んで前者と区別しています。
- 「\$THUNDERBUS_AGENT_HOME」は Thunderbus Agent をインストールしたディレクトリを表します。
- x86 版とは、32bit OS を表します。
x64 版とは、64bit(Intel 64/AMD64) OS を表します。
- <と>で囲まれた名称は、可変であることを表します。

例: /log/<ログファイル名>

- 本ドキュメント内に表記されているウェブサイトの URL は 2017 年 10 月現在のものです。ウェブサイトの都合などにより、予告無しに URL が変更になる場合があります。

1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

2. サポートプラットフォーム・サポートウェブブラウザ

2.1. Thunderbus Agent サポートプラットフォーム

- Windows
 - Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/Datacenter SP2 (x86 版、x64 版) (※1)
 - Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise/Datacenter SP1 (x64 版) (※1)
 - Microsoft Windows Server 2012 Essentials/Standard/Datacenter (x64 版) (※2)
 - Microsoft Windows Server 2012 R2 Essentials/Standard/Datacenter (x64 版) (※2)
 - Microsoft Windows Server 2016 Essentials/Standard/Datacenter (x64 版) (※3)
 - Microsoft Windows 7 Professional/Enterprise/Ultimate SP1 (x86 版、x64 版)
 - Microsoft Windows 8.1 Pro/Enterprise (x86 版、x64 版)
 - Microsoft Windows 10 Pro/Enterprise (x86 版、x64 版)

(※1) Windows Server インストールオプションがフルインストールの場合のみサポートします。

(※2) Windows Server インストールオプションがフルインストールの場合のみサポートします。(ただし、最小サーバーインターフェイスを除く)

(※3) Windows Server インストールオプションがデスクトップ エクスペリエンス搭載サーバーのみサポートします。

2.2. Thunderbus Server 管理画面サポートウェブブラウザ

- Windows
 - DataSpider Cloud のサポートウェブブラウザに準じます。

3. 推奨最小構成

3.1. Thunderbus Agent

- モニタ: 17 インチ以上
- 色: 24 ビットカラー
- 解像度: 1024x768 ピクセル以上
- Windows x86 版
 - CPU: OS が推奨するシステム要件を満たすプロセッサ
 - メモリ: 512MB 以上
 - HDD: 2GB 以上の空き容量
- Windows x64 版
 - CPU: OS が推奨するシステム要件を満たす 64bit(x64)プロセッサ
 - メモリ: 1GB 以上
 - HDD: 2GB 以上の空き容量



当構成は、製品単独の構成となります。

4. Java 実行環境について

Thunderbus AgentのインストーラーにはJava Runtime Environment(JRE)がバンドルされているため、JRE をインストールする必要はありません。

インストーラーにバンドルしている JRE のバージョンは以下の通りです。

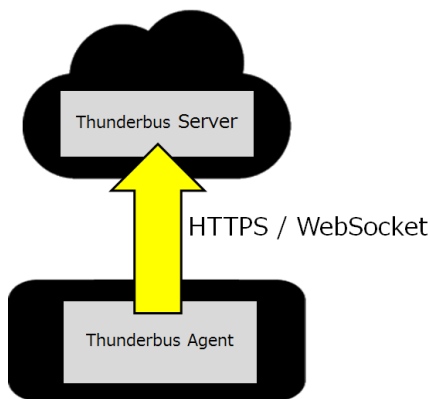
- 1.8.0_112

5. Thunderbus の概要

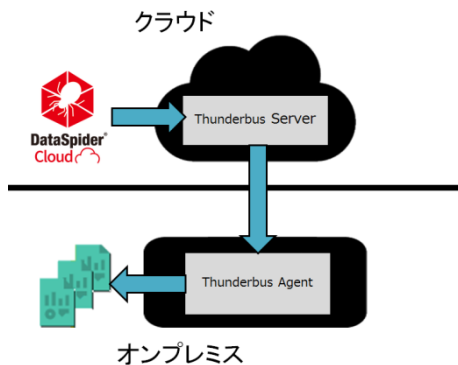
5.1. Thunderbus とは

Thunderbus は、通常では直接アクセスすることができないネットワーク環境にあるファイルや Web サーバーに対して、簡単・セキュアにアクセスする方法を提供するツールです。

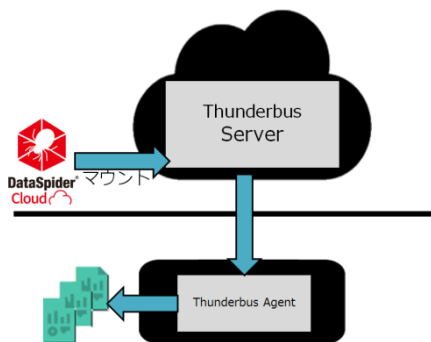
Thunderbus はアクセス先を提供するサーバー・ソフトウェア Thunderbus Server と、アクセスしたいファイルが存在するネットワーク環境内で稼働するエージェント・ソフトウェア Thunderbus Agent から構成されています。Thunderbus Agent は Thunderbus Server に対する HTTPS/WebSocket 通信で接続を保持しており、この接続によって Thunderbus Agent で設定したディレクトリ内のファイルや Web サーバーに対して Thunderbus Server 経由でのアクセスを可能にします。



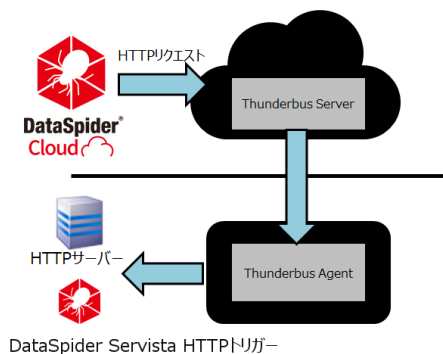
これにより、オンプレミスの環境で Thunderbus Agent を稼働させ、Thunderbus Server に接続すると、DataSpider Cloud からオンプレミス環境のファイルや HTTP サーバーへのアクセスが容易に可能になります。必要なネットワーク環境は、オンプレミス環境から Thunderbus Server へのインターネット経由の HTTPS 通信ができることのみです。従来必要だった大幅なネットワーク構成の変更や複雑な設定をすること無く、DataSpider Cloud からオンプレミス環境にあるファイルや HTTP サーバーに対してアクセスして簡単にデータ連携を行うことができるようになります。



ファイルエージェントを使用する場合、Thunderbus Server は WebDAV サーバーとして稼働します。DataSpider Cloud の Thunderbus コネクタを使用することで、DataSpider Cloud 内のディレクトリとして Thunderbus Agent で設定したディレクトリをマウントできます。これにより、DataSpider Cloud の持つ多種多様なデータ連携機能を使用してクラウド-オンプレミス連携システムを構築することができます。



また、HTTP エージェントを使用する場合、Thunderbus Server は HTTP リクエストを Thunderbus Agent に指定された URL に転送します。オンプレミス環境で動作しているウェブアプリケーションの REST API をクラウド環境からアクセスすることなどがこれにより可能になります。たとえばオンプレミス環境にある DataSpider Servista の HTTP トリガーを DataSpider Cloud のネットワークアダプタから起動し、オンプレミスのデータベースを参照するなどのデータ連携を容易に行うことができます。



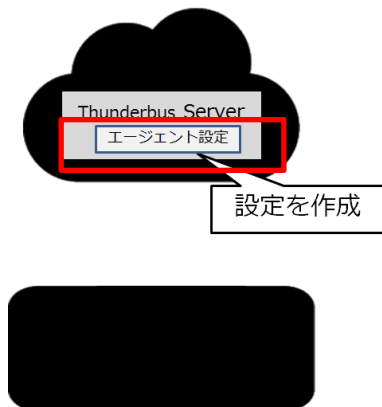
5.2. クイック・スタート・ガイド

Thunderbus を導入し、ファイルや Web サーバーにアクセスする準備が整うまでの流れについて簡単に説明します。

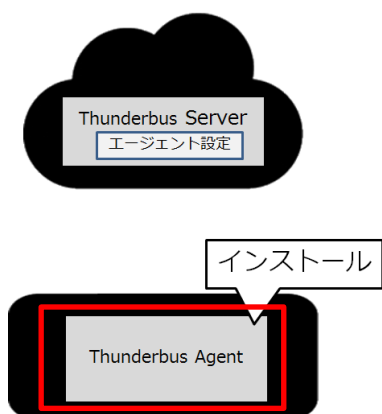
 各項目の詳細な手順については「[インストールと初期設定](#)」を参照してください。

5.2.1. Thunderbus Server と Thunderbus Agent の接続設定


1. DataSpider Cloud フロント画面の、「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」から Thunderbus Server の管理コンソールを開きます。
2. Thunderbus Server の管理コンソール上で、Thunderbus Agent の設定を作成します。

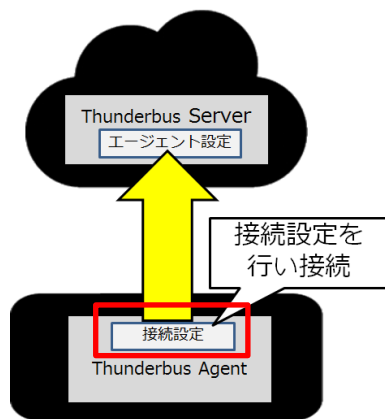


3. Thunderbus Agent を対象の筐体にインストールし、起動します。



Thunderbus Agent の管理画面で、Thunderbus Server への接続設定を行い接続します。

 Thunderbus Server への接続設定は、DataSpider Cloud フロント画面の「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」で確認することができます。

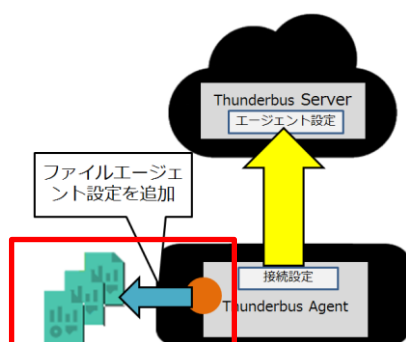


以上で、Thunderbus Server と Thunderbus Agent の接続設定が完了しました。

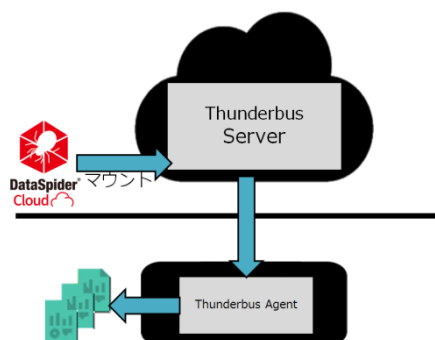
5.2.2. ファイルエージェントを使用する場合

ファイルエージェントを使用してファイルにアクセスする場合は、以下の設定を行ってください。

1. Thunderbus Agent の管理画面で、ファイルエージェント設定を行い公開したいディレクトリを指定します。これにより、指定したディレクトリに対してアクセスする準備が完了します。



2. Thunderbus Agent にアクセスする権限を持つユーザーを作成し、DataSpider Cloud の Thunderbus コネクタの設定を行うことで、対象のファイルにアクセスして操作することができます。



💡 管理者ユーザーでアクセスする場合、ユーザーの作成は必要ありません。

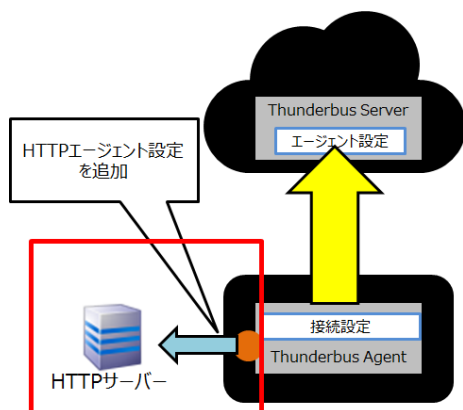
📘 ユーザーについての詳細は「[Thunderbus Server でのユーザーの作成](#)」を参照してください。

📘 DataSpider Thunderbus コネクタの使用方法については「[DataSpider Thunderbus コネクタの使用](#)
[方法](#)」を参照してください。

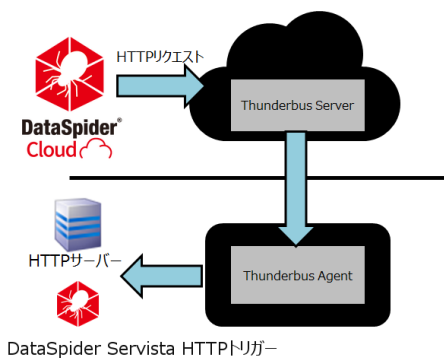
5.2.3. HTTP エージェントを使用する場合

HTTP エージェントを使用して HTTP サーバーにアクセスする場合は、以下の設定を行ってください。

1. Thunderbus Agent の管理画面で、HTTP エージェント設定を行い接続したい HTTP サーバーの URL を指定します。これにより、指定した URL に対してアクセスする準備が完了します。



2. Thunderbus Agent にアクセスする権限を持つユーザーを作成し、DataSpider Cloud のネットワークアダプタから Thunderbus Server 上の対象 URL にアクセスすることで、指定した URL にアクセスすることが可能です。



💡 Thunderbus Server 上の対象 URL は、Thunderbus Server 管理画面の「[エージェント詳細画面](#)」で確認することができます。

💡 管理者ユーザーでアクセスする場合、ユーザーの作成は必要ありません。

6. インストールと初期設定

Thunderbus を使用するには、Thunderbus Server の初期設定と、Thunderbus Agent のインストールおよび初期設定を行う必要があります。以下にその手順を記述します。

6.1. Thunderbus Server の初期設定

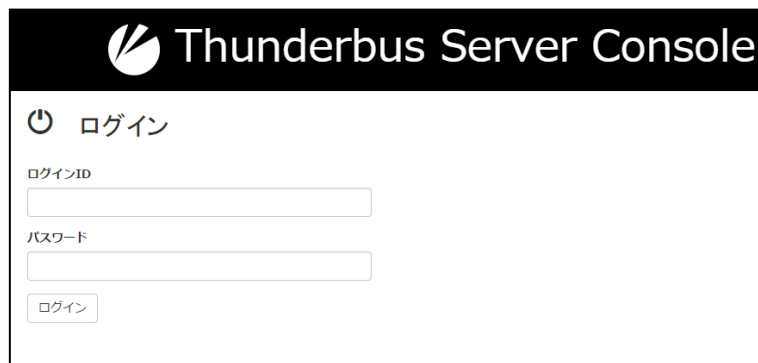
Thunderbus Server の初期設定を以下の手順にしたがって完了してください。

6.1.1. Thunderbus Server 管理画面を開く

DataSpider Cloud フロント画面の、「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」から Thunderbus Server 管理画面を開きます。

6.1.2. Thunderbus Server 管理画面での初期設定

Thunderbus Agent から接続できるように管理者ユーザーでログインし、Thunderbus Server 管理画面 (Thunderbus Server Console) で初期設定を行います。



▲Thunderbus Server 管理画面のログイン画面

1. ログイン

デフォルトの管理者ユーザーのログイン ID は「root」、パスワードは「password」です。初回ログイン時はこれを使用してください。



初回ログイン時に新しいパスワードを設定することをお勧めします。



ID・パスワードはメニュー[管理者設定]から変更可能です。

2. エージェント設定

初期状態ではエージェントは設定されておりません。エージェント一覧画面の[新規作成]ボタンから新規に作成してください。



 入力項目についての詳細は「[エージェント新規登録画面](#)」を参照してください。

新規に作成すると、エージェント一覧に作成したエージェントが表示されます。



エージェントからの接続が行われるまで、接続状態は「未接続」として表示されます。

6.2. Thunderbus Agent のインストールと初期設定


Thunderbus Agent を以下の手順にしたがってインストールし、初期設定を完了してください。


6.2.1. インストーラーの実行

1. DataSpider Cloud フロント画面からインストーラーをダウンロードします。
 - 64bit OS(x64 版)の場合 : thunderbus-agent-dsc12-x64.exe
 - 32bit OS(x86 版)の場合 : thunderbus-agent-dsc12-x86.exe
2. インストーラーを実行してセットアップ・ウィザードを開きます。
3. インストールディレクトリを選択し、**[次へ]**ボタンをクリックします。
4. サービス登録画面で**[Windows サービスに登録する]**にチェックが入っていること、**[サービス名]**を確認し、**[インストール]**ボタンをクリックします。

 Windows サービスに登録しない場合は、**[Windows サービスに登録する]**のチェックを外してください。


5. インストールが開始されます。
6. 完了画面が表示されたら、**[完了]**ボタンをクリックします。

 Windows サービスに登録した場合、スタートアップ・プログラムの登録が行われます。

 インストール時の仕様制限についての詳細は「[インストール時の仕様制限](#)」を参照してください。

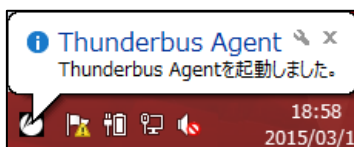
6.2.2. 起動

インストール後、自動的に Thunderbus Agent は起動します。

 手動で起動する場合の起動方法については、「[Thunderbus Agent の起動](#)」を参照してください。

6.2.3. 起動の確認と接続

正常に起動した場合、タスクトレイに以下のアイコンと通知が表示されます。




アイコンをダブルクリックするか、右クリックから「管理画面」を選択して管理画面を起動します。



以下の管理画面が表示されるので、項目に入力を行い設定します。



入力項目についての詳細は「Thunderbus Agent 管理画面」の「[基本設定](#)」を参照してください。

設定を行い、**[接続/切断]**ボタン( ボタン)をクリックすると、接続が開始されます。

正しく接続できた場合、**[接続/切断]**ボタンの色が変わり()、右の**[ステータス表示]**欄に「接続しています。」と表示されます。



設定した内容が間違っていた場合、**[ステータス表示]**欄に概要が表示され、詳細は**[詳細情報]**ボタン(🔔ボタン)をクリックすると確認できます。入力内容を確認してください。

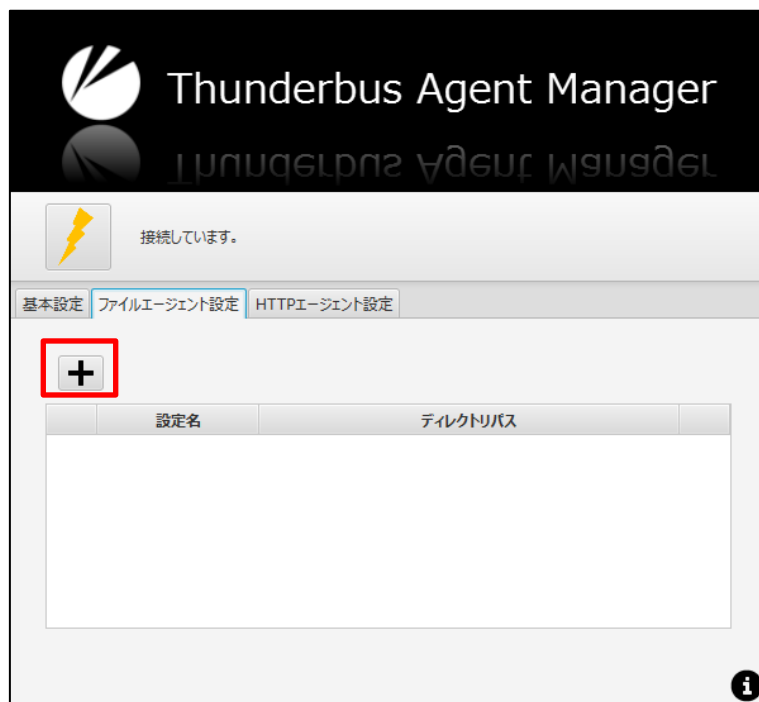


モジュールのダウンロードのため自動的に再起動が行われることがあります。


6.2.4. ファイルエージェント設定

[ファイルエージェント設定]タブから、共有するディレクトリを設定することができます。

[新規作成]ボタン(⊕ボタン)をクリックすると、設定入力画面が開きます。



入力項目に入力を行い設定します。

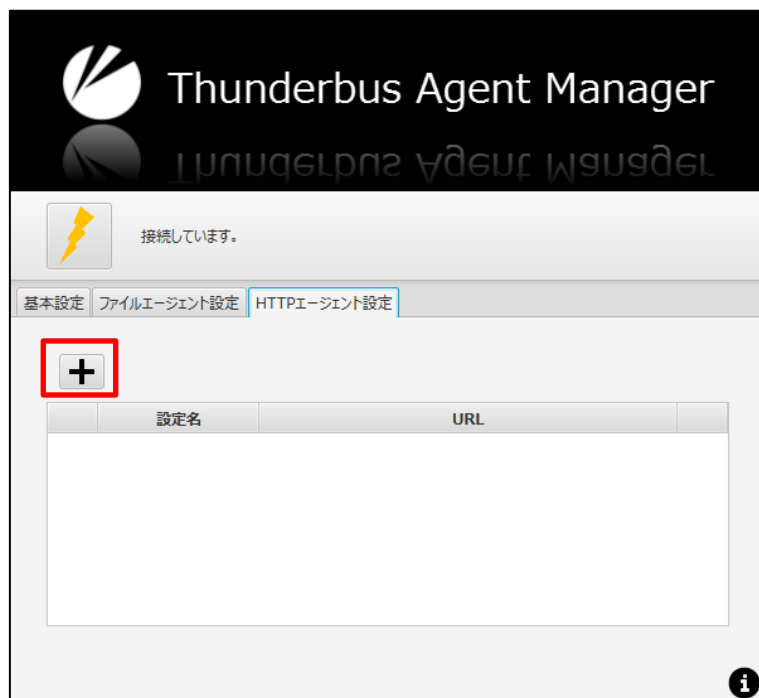
 入力項目についての詳細は「Thunderbus Agent 管理画面」の「[ファイルエージェント設定](#)」を参照してください。

設定を行うと、設定した内容が一覧に表示されます。


6.2.5. HTTP エージェント設定

[HTTP エージェント設定]タブから、公開したい HTTP サーバーの URL を設定することができます。

[新規作成]ボタン([+])ボタンをクリックすると、設定入力画面が開きます。



入力項目に入力を行い設定します。

 入力項目についての詳細は「Thunderbus Agent 管理画面」の「[HTTP エージェント設定](#)」を参照してください。

設定を行うと、設定した内容が一覧に表示されます。

6.2.6. Thunderbus Server 上での接続確認

正常に Thunderbus Agent からの接続が行われると、Thunderbus Server 上で接続状態を確認することができます。

Thunderbus Server で「**エージェント設定**」を開き(すでに開いている場合は「**最新の情報に更新**」ボタンをクリック)、以下のように接続状態が「**接続中**」になり、各種情報が表示されます。



6.3. Thunderbus Server でのユーザーの作成

Thunderbus Agent に DataSpider Cloud でアクセスする場合、ユーザー認証が求められます。対象の Thunderbus Agent にアクセスが許可されたユーザーアカウントによってユーザー認証を行った場合のみアクセスして操作が可能となります。

ユーザーには 2 つの種類があります。

- 管理者ユーザー

Thunderbus Server の管理を行うユーザーです。このユーザーアカウントで認証を行った場合、すべての Thunderbus Agent へのアクセスが許可されています。



管理者ユーザーアカウントでの Thunderbus Agent のアクセスを行わないように設定することが可能です。



管理者ユーザーのアクセス許可設定についての詳細は「[管理者設定画面](#)」を参照してください。

- ユーザー

Thunderbus Server で作成されるユーザーアカウントです。管理者ユーザーによって許可された Thunderbus Agent のみアクセスすることができます。

管理者アカウントを使用して Thunderbus Agent にアクセスする場合は、ユーザーの作成は必要ありません。

ユーザーを作成するには、**[ユーザー設定]**タブでユーザーを作成し、Thunderbus Agent へのアクセス許可を設定してください。

ここではユーザーの作成方法を紹介します。

初期状態ではユーザーは設定されていません。**[ユーザー設定]**タブを開き、ユーザー一覧画面の**[新規作成]**ボタンから新規に作成します。



ユーザー新規登録画面で、ユーザー情報を入力し、対象の Thunderbus Agent へのアクセス許可を設定してください。



入力項目についての詳細は[「ユーザー新規登録画面」](#)を参照してください。

新規に作成すると、ユーザー一覧に作成したユーザーが表示されます。



7. Thunderbus Server の使用方法

Thunderbus Server は、DataSpider Cloud と Thunderbus Agent の中継を行うサーバーです。Thunderbus Server 管理画面(Thunderbus Server Console)で Thunderbus Agent の管理などの各種設定を行うことができます。

7.1. Thunderbus Server 管理画面

Thunderbus Server 管理画面(Thunderbus Server Console)では、Thunderbus Agent の管理や動作設定などを行うことができます。



Thunderbus Server 管理画面は、DataSpider Cloud フロント画面の「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」からアクセスします。

7.1.1. 管理者ユーザーログイン

管理者ユーザーとしてログインする場合、以下の項目を入力して、ログインしてください。

項目の説明

項目名	説明	補足
ログイン ID	Thunderbus Server 管理者ユーザーの ID を入力します。	● デフォルトは「root」です。
パスワード	Thunderbus Server 管理者ユーザーのパスワードを入力します。	● デフォルトは「password」です。



Thunderbus Server 管理者の ID・パスワード変更方法は「[管理者設定](#)」を参照してください。



ユーザーとしてログインする場合は「[ユーザーログイン](#)」を参照してください。

7.1.2. エージェント設定

[エージェント設定]タブでは、Thunderbus Agent の各種設定や情報の確認を行います。

エージェント一覧画面

設定されている Thunderbus Agent の一覧を表示します。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
ライセンス情報	ライセンスの情報、および使用状況を表示します。	
表示名	設定された Thunderbus Agent の[表示名]を表示します。 リンクをクリックすると、エージェント詳細画面に遷移します。	
接続状態	設定された Thunderbus Agent の接続状態を表示します。 接続状態には以下の種類があります。 <ul style="list-style-type: none"> ● [未接続]: まだ接続が1度もされていない状態です。 ● [接続無し]: 1度接続がされ、現在接続が無い状態です。 ● [接続中]: 現在接続されている状態です。 	
ID	Thunderbus Agent の[ID]を表示します。	
使用エージェント	Thunderbus Agent で使用するエージェントの種類を表示します。	
現在のコネクション数	接続されている場合、接続されているコネクションの数を表示します。	
マシン名	Thunderbus Agent が稼働している筐体のマシン名を表示します。 [接続状態]が[接続無し]の場合、最後に接続された際のマシン名を表示します。	● [接続状態]が[未接続] の場合は表示されません。
最終接続日	最後に接続された日時を表示します。	● [接続状態]が[未

時		接続 の場合は表示されません。
---	--	------------------------

ボタンの説明

項目名	説明	補足
新規作成	Thunderbus Agent の設定を新規作成します。 ボタンをクリックすると、エージェント新規登録画面に遷移します。	
すべて再起動	[接続状態] が [接続中] の Thunderbus Agent をすべて再起動します。	● [接続状態] が [未接続] ・ [接続無し] の Thunderbus Agent は再起動できません。
再起動	対象の Thunderbus Agent を再起動します。	● [接続状態] が [未接続] ・ [接続無し] の Thunderbus Agent は再起動できません。
最新の情報に更新	Thunderbus Agent 一覧を最新の情報に更新します。	

エージェント新規登録画面

Thunderbus Agent を新規登録します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
表示名	必須	Thunderbus Agent の[表示名]を入力します。 [表示名]は、Thunderbus Server 管理画面上での表示でのみ使用され、Thunderbus Agent との接続には使用されません。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● ほかの Thunderbus Agent と同じ[表示名]を使用することはできません。
ID	必須	Thunderbus Agent の[ID]を入力します。 [ID]は、この Thunderbus Agent に対してアクセスする際の識別子として使用されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかの Thunderbus Agent と同じ[ID]を使用することはできません。
使用エージェント	必須	この Thunderbus Agent で使用するエージェントの種類を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 つ以上選択してください。
使用エージェント /ファイルエージェント	省略化	ファイルエージェントを使用するかどうかを選択します。 ● [チェックあり]:	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能なライセンスが無い場合、選択できません。

		<p>ファイルエージェントを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックなし]:デフォルト ファイルエージェントを使用しません。 	
使用エージェント /HTTP エージェント	省略化	<p>HTTP エージェントを使用するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]: HTTP エージェントを使用します。 ● [チェックなし]:デフォルト HTTP エージェントを使用しません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能なライセンスが無い場合、選択できません。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
登録	<p>入力された情報で Thunderbus Agent の登録を行います。</p> <p>登録に成功した場合、エージェント一覧画面に遷移します。</p> <p>登録に失敗した場合、エラー情報を表示します。</p>	
キャンセル	<p>入力された情報を破棄してエージェント一覧画面に戻ります。</p>	

エージェント詳細画面

設定されている Thunderbus Agent の詳細情報を表示します。

表示項目の説明

[エージェント情報]

Thunderbus Agent の各種情報が表示されます。

項目名	説明	補足
接続状態	<p>Thunderbus Agent の接続状態を表示します。 接続状態には以下の種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [未接続]: まだ接続が 1 度もされていない状態です。 ● [接続無し]: 1 度接続がされ、現在接続が無い状態です。 ● [接続中]: 現在接続されている状態です。 	
ID	Thunderbus Agent の [ID] を表示します。	
表示名	Thunderbus Agent の [表示名] を表示します。	
使用エージェント	Thunderbus Agent の [使用エージェント] を表示します。	

[エージェント設定]

Thunderbus Agent で設定された各種情報が表示されます。

項目名	説明	補足
ファイルエージェント設定	Thunderbus Agent で設定されたファイルエージェント設定の情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● [接続状態]が[未接続]・[接続無し]の場合やファイルエージェントが 1 つも設定されていない場合

		は表示されません。
ファイルエージェント設定/設定名	Thunderbus Agent で設定されたファイルエージェント設定の [設定名] が表示されます。	
HTTP エージェント設定	Thunderbus Agent で設定された HTTP エージェント設定の情報を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● [接続状態]が[未接続]・[接続無し]の場合や HTTP エージェントが 1 つも設定されていない場合は表示されません。
HTTP エージェント設定/設定名	Thunderbus Agent で設定された HTTP エージェント設定の [設定名] が表示されます。	
HTTP エージェント設定/URL	DataSpider Cloud のネットワークアダプタから接続する際の対象の URL を表示します。この URL にアクセスした場合、Thunderbus Agent に設定した URL に HTTP リクエストが転送され、HTTP レスポンスを受け取ることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラウザから対象の URL にアクセスすることはできません。

[システム情報]

項目名	説明	補足
製品名	Thunderbus Agent の製品名・バージョンを表示します。	
マシン名	Thunderbus Agent のマシン名を表示します。	
最終接続日時	Thunderbus Agent が最後に接続を開始した日時を表示します。	
パッチ情報	Thunderbus Agent の適用パッチ一覧を表示します。	● 適用されたパッチが無い場合、「なし」が表示されます。
パッチ情報/日付	適用されたパッチの作成日を表示します。	
パッチ情報/名前	適用されたパッチの名前を表示します。	
モジュールバージョン	Thunderbus Agent のモジュールのバージョン一覧を表示します。	
モジュールバージョン/名前	モジュールの名前を表示します。	
モジュールバージョン/バージョン	モジュールのバージョンを表示します。	
モジュールバージョン/パッチ名	モジュールのパッチ名を表示します。	

Thunderbus Agent のシステム関連の各種情報が表示されます。



[接続状態]が[未接続]の場合、情報は表示されません。



[接続状態]が[接続無し]の場合、最後に接続された際の情報を表示します。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
編集	Thunderbus Agent の情報を変更します。	

	ボタンをクリックすると、エージェント情報編集画面に遷移します。	
削除	<p>Thunderbus Agent を削除します。</p> <p>ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されます。[OK]</p> <p>ボタンをクリックすると、Thunderbus Agent を削除してエージェント一覧画面に遷移します。</p>	

エージェント情報編集画面

Thunderbus Agent の情報を編集します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
表示名	必須	Thunderbus Agent の 【表示名】 を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● ほかの Thunderbus Agent と同じ【表示名】を使用することはできません。
ID	必須	Thunderbus Agent の 【ID】 を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかの Thunderbus Agent と同じ【ID】を使用することはできません。
使用エージェント	必須	この Thunderbus Agent で使用するエージェントの種類を変更する場合、選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 つ以上選択してください。
使用エージェント/ ファイルエージェン	省略化	ファイルエージェントを使用するかどうかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 【チェックあり】: ファイルエージェントを使用します。 ● 【チェックなし】: 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能なライセンスが無い場合、選択できません。

ト		ファイルエージェントを使用しません。	
使用エージェント / HTTP エージェント	省略化	<p>HTTP エージェントを使用するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]: HTTP エージェントを使用します。 ● [チェックなし]: HTTP エージェントを使用しません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用可能なライセンスが無い場合、選択できません。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
保存	<p>入力された情報で Thunderbus Agent の情報を変更し、登録を行います。</p> <p>登録に成功した場合、エージェント詳細画面に遷移します。</p> <p>登録に失敗した場合、エラー情報を表示します。</p>	
キャンセル	Thunderbus Agent の情報を変更せず、エージェント詳細画面に戻ります。	

7.1.3. ユーザー設定

[ユーザー設定]タブでは、Thunderbus Agent に接続するユーザーの各種設定を行います。

ユーザー一覧画面

設定されているユーザーの一覧を表示します。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
ライセンス情報	ユーザーのライセンスの情報、および使用状況を表示します。	
ユーザー名	設定されたユーザーの[表示名]を表示します。 リンクをクリックすると、ユーザー詳細画面に遷移します。	
ID	設定されたユーザーの[ID]を表示します。	
許可エージェント数	設定されたユーザーがアクセス許可された Thunderbus Agent の数を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
新規作成	ユーザーを新規作成します。 ボタンをクリックすると、ユーザー新規登録画面に遷移します。	
削除	対象のユーザーを削除します。 ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、ユーザーの削除を行います。	

ユーザー新規登録画面

ユーザーを新規登録します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
表示名	必須	ユーザーの 【表示名】 を入力します。 【表示名】 は、Thunderbus Server 管理画面上での表示で使用され、認証には使用されません。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100文字以内の値を入力してください。 ● ほかのユーザーと同じ【表示名】を使用することはできません。
ID	必須	ユーザーの 【ID】 を入力します。 設定した値はユーザーの認証に使用されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかのユーザーと同じ【ID】を使用することはできません。
パスワード	必須	ユーザーの 【パスワード】 を入力します。 設定した値はユーザーの認証に使用されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「*****」をパスワードに設定することはできません。

			せん。
アクセス 許可設定	-	このユーザーのアクセスを許可する Thunderbus Agent を選択します。	
アクセス 許可設定/ チェック ボックス	省略可	<p>対象の Thunderbus Agent へのアクセスを許可するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【チェックあり】: このユーザーの対象 Thunderbus Agent へのアクセスを許可します。 ● 【チェックなし】: (デフォルト) このユーザーの対象 Thunderbus Agent へのアクセスを許可しません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 【すべて選択】ボタンをクリックすると、一覧に表示されているすべての Thunderbus Agent を選択します。 ● 【すべて解除】ボタンをクリックすると、一覧に表示されているすべての Thunderbus Agent の選択を解除します。
アクセス 許可設定/ エージェント名 (ID)	-	対象の Thunderbus Agent の 【表示名】 と 【ID】 を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
登録	<p>入力された情報でユーザーの登録を行います。</p> <p>登録に成功した場合、ユーザー一覧画面に遷移します。</p> <p>登録に失敗した場合、エラー情報を表示します。</p>	
キャンセル	入力された情報を破棄してユーザー一覧画面に戻ります。	

ユーザー詳細画面

設定されているユーザーの詳細情報を表示します。

表示項目の説明**[ユーザー情報]**

ユーザーの各種情報が表示されます。

項目名	説明	補足
表示名	ユーザーの [表示名] を表示します。	
ID	ユーザーの [ID] を表示します。	

[エージェント一覧]

ユーザーがアクセスを許可されている Thunderbus Agent の情報が表示されます。

項目名	説明	補足
許可	ユーザーが対象の Thunderbus Agent へのアクセスを許可されているかどうかを表示します。	
エージェント名 (ID)	対象の Thunderbus Agent の [表示名] ・ [ID] を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
削除	ユーザーを削除します。 ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されます。 [OK] ボタンをクリックすると、ユーザーを削除してユーザー一覧画面に遷移します。	
ユーザー情報/編集	ユーザーの情報を変更します。 ボタンをクリックすると、ユーザー情報編集画面に遷移します。	
エージェント一覧/編集	ユーザーの Thunderbus Agent のアクセス許可設定を変更します。 ボタンをクリックすると、ユーザーアクセス許可設定画面に遷移します。	

ユーザー情報編集画面

ユーザーの情報を編集します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
表示名	必須	ユーザーの[表示名]を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> 100 文字以内の値を入力してください。 ほかのユーザーと同じ[表示名]を使用することはできません。
ID	必須	ユーザーの[ID]を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> 100 文字以内の値を入力してください。 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ほかのユーザーと同じ[ID]を使用することはできません。
パスワード	必須	ユーザーの[パスワード]を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 「*****」をパスワードに設定することはできません。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
登録	入力された情報でユーザーの情報を変更し、登録を行います。 登録に成功した場合、ユーザー詳細画面に遷移します。 登録に失敗した場合、エラー情報を表示します。	
キャンセル	ユーザーの情報を変更せず、ユーザー詳細画面に戻ります。	

ユーザーアクセス許可設定画面

ユーザーの Thunderbus Agent へのアクセス許可設定を行います。

入力項目の説明

項目名	必須/省略可	説明	補足
アクセス許可設定	-	このユーザーのアクセスを許可する Thunderbus Agent を選択します。	
アクセス許可設定/チェックボックス	省略可	<p>対象の Thunderbus Agent へのアクセスを許可するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]: このユーザーの対象 Thunderbus Agent へのアクセスを許可します。 ● [チェックなし]: (デフォルト) このユーザーの対象 Thunderbus Agent へのアクセスを許可しません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● [すべて選択]ボタンをクリックすると、一覧に表示されているすべての Thunderbus Agent を選択します。 ● [すべて解除]ボタンをクリックすると、一覧に表示されているすべての Thunderbus Agent の選択を解除します。
アクセス許可設定/エージェント名 (ID)	-	対象の Thunderbus Agent の [表示名] と [ID] を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
登録	入力された情報で Thunderbus Agent のアクセス許可設定の変更を行い、ユーザー詳細画面に遷移します。	
キャンセル	入力された情報を破棄してユーザー詳細画面に戻ります。	

7.1.4. 管理者設定

[管理者設定]タブでは、Thunderbus Server の管理者ユーザーの設定を行います。

管理者設定画面

Thunderbus Server の管理者ユーザーの設定を行います。

表示項目の説明

[管理者アカウント設定]

管理者ユーザーのアカウント関連の各種情報が表示されます。

項目名	説明	補足
表示名	「管理者」が表示されます。	
ID	Thunderbus Server の管理者ユーザーの[ID]が表示されます。	

[管理者アクセス設定]

管理者ユーザーの Thunderbus Agent のアクセス設定を行います。

項目名	説明	補足
アクセス許可設定/ すべてのエージェントへのアクセス を許可する	<p>Thunderbus Server 管理者ユーザーのアカウント情報([ID]と[パスワード])ですべてのエージェントへのアクセスを許可するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]:(デフォルト) <p>管理者ユーザーのアカウント情報ですべてのエージェントへのアクセスをすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックなし]: <p>管理者ユーザーのアカウント情報でエージェントにアクセスすることはできません。</p>	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
ID 変更	<p>管理者ユーザーの[ID]を変更します。</p> <p>ボタンをクリックすると、管理者情報編集画面に遷移します。</p>	

パスワード変更	管理者ユーザーの[パスワード]を変更します。 ボタンをクリックすると、管理者パスワード変更画面に遷移します。	
管理者アクセス 設定保存	変更した情報を保存します。 [管理者アクセス設定]の変更内容を保存します。	

管理者情報編集画面

管理者ユーザーの ID を変更します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
ID	必須	管理者ユーザーの [ID] を変更する場合、入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかのユーザーと同じ[ID]を使用することはできません。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
登録	入力された情報で [ID] を変更します。 変更成功した場合、管理者設定画面に遷移します。 変更失敗した場合、エラー情報を表示します。	
キャンセル	パスワードを変更せず、管理者設定画面に戻ります。	

管理者パスワード変更画面

管理者のパスワードを変更します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
現在のパスワード	必須	現在のパスワードを入力します。	
新しいパスワード	必須	新しいパスワードを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「*****」をパスワードに設定することはできません。
新しいパスワード(再入力)	必須	[新しいパスワード]と同じパスワードを入力します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
保存	入力された情報でパスワードを変更します。 変更成功した場合、管理者設定画面に遷移します。 変更失敗した場合、エラー情報を表示します。	
キャンセル	パスワードを変更せず、管理者設定画面に戻ります。	

7.1.5. システム情報

[システム情報]タブでは、Thunderbus Server のシステム情報の確認・設定の変更を行います。

システム情報画面

Thunderbus Server のシステム情報の確認・設定の変更を行います。

表示・入力項目の説明


[システム情報]

Thunderbus Server のシステム関連の各種情報を表示します。

項目名	説明	補足
製品名	Thunderbus Server の製品名・バージョンを表示します。	
起動日時	Thunderbus Server が起動した日時を表示します。	

[ログ設定]

Thunderbus Server のログ設定を行います。

項目名	説明	補足
ログレベル	<p>ログレベルの設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [INFO]:(デフォルト) <p>最低限の動作情報やエラー情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [DEBUG]: <p>[INFO]で出力されるログに加え、アクセス情報など詳細なログが出力されます。</p>	
ログファイル	ダウンロードするログファイルを選択します。	 ログファイルについての詳細は「 ログファイル 」を参照してください。

[ライセンス情報]

ライセンス情報を表示します。

項目名	説明	補足
期限	ライセンスに使用期限がある場合、使用期限を表示します。 使用期限が無い場合[無期限]が表示されます。	
ファイルエージェント数	使用可能なファイルエージェントのライセンス数および使用中のライセンス数を表示します。	
HTTP エージェント数	使用可能な HTTP エージェントのライセンス数および使用中のライセンス数を表示します。	
ユーザー数	使用可能なユーザーのライセンス数および使用中のライセンス数を表示します。	

[パッチ情報]

Thunderbus Server の適用パッチ一覧を表示します。

適用されたパッチが無い場合、「なし」が表示されます。

項目名	説明	補足
パッチ情報/日付	適用されたパッチの作成日を表示します。	
パッチ情報/名前	適用されたパッチの名前を表示します。	

[サーバーモジュールバージョン]

Thunderbus Server で使用しているモジュールのバージョンを表示します。

項目名	説明	補足
名前	モジュールの名前を表示します。	
バージョン	モジュールのバージョンを表示します。	
パッチ名	モジュールのパッチ名を表示します。	

[エージェントモジュールバージョン]

Thunderbus Agent のライブラリ同期に使用されるモジュールのバージョンを表示します。




Thunderbus Agent のライブラリ同期についての詳細は「[Thunderbus Agent のライブラリ同期について](#)」を参照してください。

項目名	説明	補足
-----	----	----

名前	モジュールの名前を表示します。	
バージョン	モジュールのバージョンを表示します。	
パッチ名	モジュールのパッチ名を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
ログ設定保存	[ログ設定]で設定された内容を保存します。	
ダウンロード	[ログファイル]で選択したログファイルのダウンロードを行います。	
ライセンス再読み込み	ライセンスファイルを再読み込みし、ライセンス情報を更新します。	 ライセンスについての詳細は「 ライセンス 」を参照してください。
使用しているライブラリについて	Thunderbus Server および Thunderbus Agent で使用しているライブラリの一覧を表示します。	

7.1.6. ユーザーログイン

Thunderbus Server 管理画面に管理者以外のユーザーとしてログインすると、アクセスを許可された Thunderbus Agent の状態表示およびパスワードの変更を行うことができます。

ユーザーとしてログインする場合、ログイン画面で以下の項目を入力して、ログインしてください。

項目の説明

項目名	説明	補足
ログイン ID	ユーザーの ID を入力します。	
パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。	

エージェント設定

ユーザーとしてログインした場合、**[エージェント設定]**タブでは Thunderbus Agent の状態を確認することができます。



Thunderbus Agent の新規作成・編集・削除を行うことはできません。



[エージェント設定]タブの詳細については「[エージェント設定](#)」を確認してください。

ユーザー設定

[ユーザー設定]タブでは、ログインしているユーザーの詳細情報の表示、およびパスワード変更を行います。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
表示名	ユーザーの [表示名] を表示します。	
ID	ユーザーの [ID] を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
パスワード変更	ユーザーの [パスワード] を変更します。 ボタンをクリックすると、ユーザーパスワード変更画面に遷移します。	

ユーザーパスワード変更画面

ユーザーのパスワードを変更します。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
現在のパスワード	必須	現在のパスワードを入力します。	
新しいパスワード	必須	新しいパスワードを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 半角英数字、および記号「-」・「,」・「_」・「.」・「@」・「=」のみ使用することができます。 ● 「*****」をパスワードに設定することはできません。
新しいパスワード(再入力)	必須	[新しいパスワード]と同じパスワードを入力します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
保存	入力された情報でパスワードを変更します。 変更に成功した場合、ユーザー設定画面に遷移します。 変更に失敗した場合、エラー情報を表示します。	
キャンセル	パスワードを変更せず、ユーザー設定画面に戻ります。	

7.2. ログ

7.2.1. ログファイル

Thunderbus Server のログは以下の名前のファイルに出力されます。

- server.log

ファイルサイズが約 2MB を越えるごとに、server.log.<数字>(<数字>は、1 ～ 10)という名前のファイルが自動生成され、ログの内容がバックアップされます。

ログおよびバックアップファイルは Thunderbus Server 管理画面(Thunderbus Server Console)からダウンロードできます。



ダウンロード方法についての詳細は「Thunderbus Agent 管理画面」の「[システム情報画面](#)」を参照してください。

7.3. ライセンス

7.3.1. ライセンスの仕様

エージェント数の制限について

ライセンスに設定されたファイルエージェント数および HTTP エージェント数の制限を超えた Thunderbus Agent を作成することはできません。

ユーザー数の制限について

ライセンスに設定されたユーザー数の制限を超えたユーザーを作成することはできません。

7.4. 仕様制限

7.4.1. Thunderbus Agent のライブラリ同期について

Thunderbus Server には Thunderbus Agent のライブラリが格納されています。

Thunderbus Agent からの接続時にモジュールのチェックが行われ、Thunderbus Agent と Thunderbus Server のモジュールのバージョンに差異が検知された場合、以下の Thunderbus Agent のライブラリが格納されているフォルダに同期され、ライブラリの同期が行われます。

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/lib/runtime



Thunderbus Agent の再接続によってもライブラリの同期が行われます。

7.4.2. その他の仕様制限

- 複数の Thunderbus Agent が同一の[**ID**]を使用して Thunderbus Server に接続すると予期せぬ動作になることがあるため、複数の Thunderbus Agent で同一の[**ID**]を使用しないようにしてください。

8. Thunderbus Agent の使用方法

Thunderbus Agent は、オンプレミスのマシンに常駐し、DataSpider Cloud からのローカルリソースへのアクセスを提供するツールです。Thunderbus Server と常時接続を行っており、DataSpider Cloud からは Thunderbus Server 経由でアクセスされます。

8.1. Thunderbus Agent の起動・停止

8.1.1. Thunderbus Agent のプロセス

Thunderbus Agent のプロセスは、Windows サービスから起動する場合と実行ファイルから起動する場合によって異なります。

Windows サービスからの起動

以下の 2 つのプロセスが起動します

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/service/AgentService.exe

Thunderbus Server との接続を行うバックグラウンド・プロセスです。Windows サービスから起動します。

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManger.exe

Thunderbus Agent 管理画面(Thunderbus Agent Manager)を表示する GUI のプロセスです。デフォルトではインストーラーで Windows のスタートアップ・プログラムに登録されるため、ログイン時に自動起動します。手動で実行ファイルから起動することもできます。

実行ファイルからの起動

以下 1 プロセスが起動します。

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManger.exe

Thunderbus Server との接続を行うバックグラウンド・プロセスと Thunderbus Agent 管理画面(Thunderbus Agent Manager)を表示する GUI のプロセスの双方を兼ねたプロセスです。デフォルトではインストーラーで Windows のスタートアップ・プログラムに登録されるため、ログイン時に自動で起動します。手動で実行ファイルから起動することもできます。

8.1.2. Thunderbus Agent の起動

Thunderbus Agent を起動する場合は以下のように行います。

Windows サービスからの起動

Windows サービスに登録した場合は、デフォルトでは自動で起動するため、手動で起動する必要はありません。

手動で起動する場合、以下手順で起動します。

1. Windows の「サービス」画面でインストール時に指定したサービス名のサービスを開始し、バックグラウンド・プロセス(AgentService.exe)を起動します。



インストール直後は自動で起動します。



インストーラーでスタートアップの種類が「自動」として登録されます。スタートアップの種類を変更していない場合、インストール後に OS を再起動した際には自動で起動します。自動で起動している場合、この手順は不要です。

2. 以下のいずれかの方法で GUI プロセス(AgentManager.exe)を起動します。
 - Windows スタートメニューの「すべてのプログラム」 - 「Thunderbus Agent for DataSpider Cloud <バージョン番号>」 - 「Thunderbus Agent」を実行します。
 - \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManager.exe を実行します。



インストール直後は自動で起動します。



インストーラーで Windows のスタートアップ・プログラムに登録されます。スタートアップ・プログラムから削除していない場合は、ログイン時に自動で起動します。自動で起動している場合、この手順は不要です。

実行ファイルからの起動

Windows サービスから起動しない場合、または Windows サービスへの登録を行っていない場合は、以下のいずれかの方法で実行ファイル(AgentManager.exe)を起動します。

- Windows スタートメニューの「すべてのプログラム」 - 「Thunderbus Agent for DataSpider Cloud <バージョン番号>」 - 「Thunderbus Agent」を管理者権限で実行します。
- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManager.exe を管理者権限で実行します。



管理者権限で実行されていない場合、起動に失敗することがあります。

8.1.3. Thunderbus Agent の停止

Thunderbus Agent の停止は以下のように行います。

Windows サービスから起動した場合

以下の手順で停止します。

1. タスクバーの Thunderbus Agent アイコンを右クリックして[終了]をクリックし、GUI プロセス (AgentManager.exe)を停止します。
2. インストール時に指定したサービス名のサービスを停止します。

実行ファイルから起動した場合

タスクバーの Thunderbus Agent アイコンを右クリックして[終了]をクリックし、GUI プロセス (AgentManager.exe)を停止します。

8.1.4. Thunderbus Agent の再起動

Thunderbus Agent の再起動は以下のように行います。

Windows サービスから起動した場合

以下の手順で再起動します。

1. タスクバーの Thunderbus Agent アイコンを右クリックして[終了]をクリックし、GUI プロセス (AgentManager.exe)を停止します。
2. インストール時に指定したサービス名のサービスを再起動します。
3. 以下のいずれかの方法で GUI プロセス(AgentManager.exe)を起動します。
 - Windows スタートメニューの「すべてのプログラム」 - 「Thunderbus Agent for DataSpider Cloud <バージョン番号>」 - 「Thunderbus Agent」を実行します。
 - \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManager.exeを実行します。



サービスを再起動した場合、必ず GUI プロセスも再起動するようにしてください。GUI プロセスを再起動しない場合、操作ができません。

実行ファイルから起動した場合

Thunderbus Agent を停止したあと、Thunderbus Agent を起動します。



詳細は「[Thunderbus Agent の停止](#)」および「[Thunderbus Agent の起動](#)」を参照してください。

8.2. Thunderbus Agent 管理画面

Thunderbus Agent 管理画面(Thunderbus Agent Manager)では、Thunderbus Server への接続設定やファイルエージェント設定などを行うことができます。

8.2.1. Thunderbus Agent 管理画面の表示




Windows のタスクトレイ中の「Thunderbus Agent」をダブルクリックする、もしくは右クリックして[管理画面]をクリックすると Thunderbus Agent 管理画面が表示されます。


8.2.2. 接続/切断ボタン

[接続/切断]ボタンで、Thunderbus Server との接続・切断を行います。

接続の状態は、[接続/切断]ボタンの右の[ステータス表示]欄に表示されます。

表示項目・ボタンの説明

項目名	アイコン	説明	補足
接続/切断	 :接続中  :切断中	<p>Thunderbus Server への接続・切断を行います。</p> <p>[切断中]アイコンをクリックすると接続を行います。</p> <p>[接続中]アイコンをクリックすると切断を行います。</p> <p>接続時に入力項目の値の適用・保存を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 接続を行い失敗すると[切断中]アイコンになります。 ● 接続に失敗した場合、一定期間ごとに接続処理を試行します。 <p> 接続処理の再試行</p> <p>についての詳細は「接続処理の再試行について」を参照してください。</p>
ステータス表示	-	現在の接続ステータスの概要を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● メッセージが長い場合は省略して表示されます。メッセージ全文を

			確認したい場合は[詳細情報]ボタンをクリックしてください。
詳細情報		エラーによって接続に失敗した場合、エラーの詳細な情報を表示する詳細情報ダイアログを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> 接続していない場合または正常に接続している場合は表示されません。

詳細情報ダイアログ

詳細情報ダイアログでは、接続に失敗した場合のエラーの詳細な情報を確認することができます。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
詳細	エラーのメッセージおよびスタックトレースを表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
コピー	[詳細]の情報を OS のクリップボードにコピーします。	
閉じる	ダイアログを閉じます。	

8.2.3. 基本設定

[基本設定]タブでは Thunderbus Server への接続情報の設定などを行います。




入力項目に入力された値は、接続時に適用・保存を行います。

入力項目の説明

項目名	必須/省略可	説明	補足
エンドポイント	必須	DataSpider Cloud フロント画面の「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」で表示され	

		<p>た値を入力します。</p> <p>エンドポイントは連携サーバごとに、サービスによって一意な値が付与されます。</p>	
エージェント ID	必須	<p>Thunderbus Agent の[ID]を入力します。</p> <p>Thunderbus Server で Thunderbus Agent ごとに設定した[ID]を入力してください。</p>	
BASIC 認証 ID	必須	<p>DataSpider Cloud フロント画面の「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」で設定した値を入力します。</p> <p>BASIC 認証 ID は連携サーバに接続する際の認証に使われます。</p>	
BASIC 認証パスワード	必須	<p>DataSpider Cloud フロント画面の「連携サーバ管理」メニュー内の「Thunderbus」で設定した値を入力します。</p> <p>BASIC 認証パスワードは連携サーバに接続する際の認証に使われます。</p>	
プロキシサーバーを使用する	省略可	<p>Thunderbus Server との接続でプロキシサーバーを使用して行うかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]: <p>プロキシサーバーを使用して Thunderbus Server と接続を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [チェックなし]: (デフォルト) <p>プロキシサーバーを使用せずに直接 Thunderbus Server と接続します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● [チェックあり]の場合、[プロキシサーバー設定]リンクが有効になります。


ボタン/リンクの説明

項目名	アイコン	説明	補足
プロキシサーバー設定	-	プロキシサーバー設定ダイアログを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ● [プロキシサーバーを使用する]にチェックが入っている場合、有効になります。
バージョン情報		バージョン情報ダイアログを開きます。	

プロキシサーバー設定ダイアログ

プロキシサーバー設定ダイアログでは、プロキシサーバーを使用して接続を行う際の接続設定を行います。

入力項目の説明

項目名	必須/省略可	説明	補足
ホスト	必須	プロキシサーバーのホスト名を入力します。	
ポート	必須	プロキシサーバーのポート番号を入力します。	
認証を使用する	任意	<p>プロキシサーバーとの接続に基本認証を使用するかどうかを選択します。</p> <p>[チェックあり]: 基本認証を使用して接続を行います。</p> <p>[チェックなし]:(デフォルト) 認証を使用せずに接続を行います。</p>	 プロキシサーバーの認証は基本認証のみサポートしています。ダイジェスト認証・NTLM 認証などが必要なプロキシサーバーへの接続はできません。
ユーザー	必須	プロキシサーバーの基本認証で使用するユーザー名を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● [認証を使用する]が[チェックあり]の場合、有効になります。
パスワード	必須	プロキシサーバーの基本認証で使用するパスワードを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● [認証を使用する]が[チェックあり]の場合、有効になります。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
保存	入力内容を保存し、ダイアログを閉じます。	
キャンセル	入力内容を保存せずにダイアログを閉じます。	

バージョン情報ダイアログ

バージョン情報ダイアログでは、Thunderbus Agent のバージョン情報やモジュールの情報、パッチ適用状況などを確認できます。

表示項目の説明

[全般]

Thunderbus Agent 全般の情報を表示します。

項目名	説明	補足
製品名	Thunderbus Agent の製品名・バージョンを表示します。	
起動日時	Thunderbus Agent が起動した日時を表示します。	
マシン名	Thunderbus Agent が稼働しているマシン名を表示します。	
Copyright	著作権情報を表示します。	

[システムモジュール]

Thunderbus Agent が使用しているモジュールの情報を表示します。

項目名	説明	補足
名前	モジュールの名前を表示します。	
バージョン	モジュールのバージョンを表示します。	
パッチ名	モジュールのパッチ名を表示します。	

[パッチ情報]

項目名	説明	補足
日付	パッチが適用された日付を表示します。	
名前	適用されたパッチの名前を表示します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
閉じる	ダイアログを閉じます。	




8.2.4. ファイルエージェント設定

[ファイルエージェント設定]タブではファイルエージェントの一覧の表示および設定を行います。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
設定名	設定されたディレクトリの設定名を表示します。 この名前は、DataSpider Cloud からのアクセスではディレクトリ名として使用されます。	
ディレクトリパス	設定されたディレクトリのファイルパスを表示します。 クリックすると対象のディレクトリを Windows のエクスプローラで表示します。	

ボタンの説明

項目名	アイコン	説明	補足
新規作成		ファイルエージェント設定を新規作成します。 クリックするとファイルエージェント設定ダイアログが開きます。	● ファイルエージェント設定は 1000 個まで作成できます。
編集		対象のファイルエージェント設定を編集します。 クリックするとファイルエージェント設定ダイアログが開きます。	● ファイルエージェント設定が 1 つも存在しない場合は表示されません。
削除		対象のファイルエージェント設定を削除します。 クリックすると確認ダイアログが開きます。	● ファイルエージェント設定が 1 つも存在しない場合は表示されません。

ファイルエージェント設定ダイアログ

ファイルエージェント設定で**[新規作成]**ボタンまたは**[編集]**ボタンをクリックすると表示されるダイアログです。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
設定名	必須	ディレクトリの設定名を入力します。 この名前は、DataSpider Cloud からのアクセスではディレクトリ名として使用されます。設定されたディレクトリの設定名を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 記号「¥」・「/」・「:」・「;」・「*」・「?」・「'」を使用することはできません。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかの設定と同じ[設定名]を使用することはできません。
ディレクトリパス	必須	ディレクトリのファイルパスを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 絶対パスで指定してください。 ● ファイルや存在しないディレクトリは指定できません。

ボタンの説明

項目名	説明	補足
保存	入力した内容を保存し、ダイアログを閉じます。	

キャンセル	入力した内容を保存せずにダイアログを閉じます。	
-------	-------------------------	--




8.2.5. HTTP エージェント設定

[HTTP エージェント設定]タブでは HTTP エージェントの一覧の表示および設定を行います。

表示項目の説明

項目名	説明	補足
設定名	設定された URL の設定名を表示します。	
URL	設定された URL を表示します。 クリックすると対象の URL がブラウザで開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラウザで開く場合、OS でデフォルトに設定されたブラウザが使用されます。

ボタンの説明

項目名	アイコン	説明	補足
新規作成		HTTP エージェント設定を新規作成します。 クリックすると HTTP エージェント設定ダイアログが開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ● HTTP エージェント設定は 1000 個まで作成できます。
編集		対象の HTTP エージェント設定を編集します。 クリックすると HTTP エージェント設定ダイアログが開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ● HTTP エージェント設定が 1 つも存在しない場合は表示されません。
削除		対象の HTTP エージェント設定を削除します。 クリックすると確認ダイアログが開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ● HTTP エージェント設定が 1 つも存在しない場合は表示されません。

HTTP エージェント設定ダイアログ

HTTP エージェント設定で**[新規作成]**ボタンまたは**[編集]**ボタンをクリックすると表示されるダイアログです。

入力項目の説明

項目名	必須/ 省略可	説明	補足
設定名	必須	URL の設定名を入力します。 この名前は、DataSpider Cloud のネットワークアダプタからのアクセスでは URL の一部として使用されます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100 文字以内の値を入力してください。 ● 記号「¥」・「/」・「:」・「;」・「*」・「?」・「'」を使用することはできません。 ● 「.」で終わる値を設定することはできません。 ● ほかの設定と同じ[設定名]を使用することはできません。
URL	必須	接続したい URL を入力します。	
HTTP 認証設定	省略可	指定した [URL] に接続する際に使用する HTTP 認証の ID・パスワードを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本認証をサポートしています。
HTTP 認証設定/ID	省略可	指定した [URL] に接続する際に使用する HTTP 認証の ID を入力します。	
HTTP 認証設定/パスワード	省略可	指定した [URL] に接続する際に使用する HTTP 認証のパスワードを入力します。	

ボタンの説明

項目名	説明	補足
接続テスト	接続したいサーバーへの接続確認を行います。	

保存	入力した内容を保存し、ダイアログを閉じます。	
キャンセル	入力した内容を保存せずにダイアログを閉じます。	



指定した[URL]への接続時にプロキシサーバーを経由したい場合、プロパティファイルに以下の項目を追加で指定することで可能です。

- tb.http.agent.http.proxyHost
- tb.http.agent.http.proxyPort

例:

tb.http.agent.http.proxyHost=example.com

tb.http.agent.http.proxyPort=80



プロパティファイルの詳細については「[プロパティファイル](#)」を参照してください。

8.3. プロパティファイル

プロパティファイルでは、Thunderbus Agent 管理画面では設定できない各種の動作情報を変更することができます。

プロパティファイルは以下の場所に格納されています。

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/conf/system.properties

プロパティファイルを任意のテキストエディタで開き、編集してください。

8.3.1. 項目の説明



各プロパティの内容は以下の通りです。



「反映タイミング」が「接続時」の項目は、Thunderbus Server との接続および再接続時に値が反映されるため、再起動は必要ありません。「起動時」の項目は、反映するには起動および再起動を行う必要があります。

項目の説明

キー	設定値	説明	反映タイミング	補足
tb.log.level	「INFO」または「DEBUG」	<p>Thunderbus Agent のログレベルを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [INFO]:(デフォルト) 最低限の動作情報やエラー情報が表示されます。 ● [DEBUG]: [INFO]で出力されるログに加え、接続情報など詳細なログが出 	接続時	

		力されます。		
tb.log.max.file.size	数値	ログのローテーションファイルサイズをByte 単位で指定します。	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト値は「2097152」です。 ●  詳細については「ログ設定」を参照してください。
tb.log.backup.file.index	数値	ログのローテーションファイル数を指定します。	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト値は「10」です。 ●  詳細については「ログ設定」を参照してください。
tb.http.agent.connect.timeout	数値	HTTP サーバーへの接続のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト値は「600」です。 ● 「1」から「2147483647」までの値が指定できます。この範囲外の値を指定した場合、デフォルト値が使用されます。
tb.http.agent.read.timeout	数値	HTTP サーバー接続後、リクエストを送信してからレスポンスを受信するまでの応答のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト値は「600」です。 ● 「1」から「2147483647」までの値が指定できます。この範囲外の値を指定した場合、デフォルト値が使用されます。
tb.http.agent.http.proxyHost	プロキシサーバーのホ	HTTP エージェントの通信で使用するプロキ	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトでは記述さ

	スト名	シサーバーのホスト名 または IP アドレスを 指定します。		れていません。
tb.http.agent.http .proxyPort	数値	HTTP エージェントの 通信で使用するプロキ シサーバーのポート番 号を指定します。	起動時	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトでは記述されていません。

8.3.2. 接続処理の再試行について

Thunderbus Server との接続に失敗した場合、Thunderbus Agent は一定間隔ごとに接続処理を試行します。これにより、ネットワークの瞬断が発生した場合や Thunderbus Server の再起動が行われた場合、自動的に接続を再確立することができます。

8.3.3. ログ設定

Thunderbus Agent のログは以下の場所に出力されます。

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/log/agent.log

プロパティファイル(system.properties)のローテーションファイルサイズおよびローテーションファイル数の設定により、ファイルサイズが大きくなるとバックアップファイルが自動生成されます。

例:

- ローテーションファイルサイズ「2097152」
- ローテーションファイル数「10」

ファイルサイズが約 2MB を越えるごとに、agent.log.<数字>(<数字>は、1 ~ ローテーションファイル数が最大まで)という名前のファイルが自動生成され、ログの内容がバックアップされます。



設定したローテーションファイルサイズはあくまでも目安であり、それを越えたサイズでバックアップされる場合があります。



設定項目は起動時に反映されるため、反映するためには再起動を行ってください。



ローテーションファイル数の設定値が大き過ぎる場合、ローテーションに失敗することがあります。1000 以下の数を指定するようにしてください。

8.4. バージョンアップおよび再インストール時の設定の移行

Thunderbus Agent をバージョンアップや再インストールする場合、設定ファイルを移行することで現在の設定を維持して新しい Thunderbus Agent を使用することができます。

移行の手順は以下です。

1. 現在の Thunderbus Agent を停止する。



詳細については「[Thunderbus Agent の停止](#)」を参照してください。

2. 現在の Thunderbus Agent の設定のバックアップを行う。



詳細については「[設定のバックアップ](#)」を参照してください。

3. 新しい Thunderbus Agent をインストールする。



詳細については「[Thunderbus Agent のインストールと初期設定](#)」を参照してください。

4. バックアップから新しい Thunderbus Agent に設定の移行を行う。



詳細については「[バックアップからの設定の移行](#)」を参照してください。

5. 新しい Thunderbus Agent を起動する。



詳細については「[Thunderbus Agent の起動](#)」を参照してください。

6. 現在の Thunderbus Agent のアンインストールを行う。



詳細については「[Thunderbus Agent のアンインストール](#)」を参照してください。

8.4.1. 設定のバックアップ

設定のバックアップを行います。OS のコピー機能を使用して、設定ファイルを退避ディレクトリに移動します。

1. 任意の場所に退避ディレクトリを作成します。
2. 現在の Thunderbus Agent をインストールディレクトリごとコピーします。
3. 退避ディレクトリに貼り付けます。

8.4.2. バックアップからの設定の移行

現在の Thunderbus Agent の設定を、新しい Thunderbus Agent に移行します。

ファイルを上書きコピーするものと、設定の項目をテキストエディタで移行するものがあります。

ファイルの上書き

待避ディレクトリにある現在の Thunderbus Agent の以下ディレクトリにある設定ファイルを、新しい Thunderbus Agent の同階層のディレクトリに OS のコピー機能を使用してコピーして上書きください。

ディレクトリパス	ファイル名	説明
\$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/etc	(ディレクトリすべて)	各種設定ファイルが保存されています。

設定項目の移行


待避ディレクトリの以下ディレクトリにあるファイルは、インストール後に内容の変更が行われている場合があります。そのため、変更を行った項目を新しい Thunderbus Agent の同階層にあるファイルの対象の項目にテキストエディタ上でコピーして移行してください。



デフォルトから変更していない場合は、移行の必要はありません。



上書きコピーは行わないようにしてください。

ディレクトリパス	ファイル名	説明
\$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/conf	system.properties	動作設定情報が記述されています。  詳細については「 プロパティファイル 」を参照してください。

8.5. その他の設定

8.5.1. メモリ割り当て値の変更について

Thunderbus Agent へのアクセスが多い場合など負荷が高い場合、起動時にメモリ割り当て値(ヒープサイズ)を増やすことで OutOfMemoryError が発生することを防いだり、パフォーマンスを向上させたりすることができます。

ヒープサイズの変更は以下のファイルで行います。

Windows サービスから起動した場合

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/system/service/AgentService.ini

実行ファイルから起動した場合

- \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/AgentManager.ini

項目の説明

キー	設定できる値	説明	説明
vmarg.1	ヒープサイズの最大値以下の値	ヒープサイズの初期値を指定します。本設定を行うと、Thunderbus Agent の起動時に設定値までメモリが割り当てられます。 設定例 : vmarg.1=-Xms256m	<ul style="list-style-type: none"> ● キロバイトを指定するには、数値のあとにキロを表す「k」または「K」を付けます。メガバイトを指定するには、数値のあとにメガを表す「m」または「M」を付けます。 ● キロバイト・メガバイトを指定しない場合、設定値は「1024」の倍数にする必要があります。
vmarg.2	ヒープサイズの初期値以上の値	ヒープサイズの最大値を指定します。 設定例 : vmarg.2=-Xmx512m	<ul style="list-style-type: none"> ● キロバイトを指定するには、数値のあとにキロを表す「k」または「K」を付けます。メガバイトを指定するには、数値のあとにメガを表す「m」ま

			<p>たは「M」を付けます。</p> <ul style="list-style-type: none">● キロバイト・メガバイトを指定しない場合、設定値は「1024」の倍数にする必要があります。
--	--	--	---

8.6. 仕様制限

8.6.1. インストール時の仕様制限

- 記号・マルチバイト文字を含むディレクトリ名のディレクトリはインストールディレクトリとして使用できません。使用した場合、起動に失敗することがあります。
- サービス名に記号・タブ文字は使用できません。使用した場合、サービスの登録や起動に失敗することがあります。

8.6.2. その他の仕様制限

- 複数の Thunderbus Agent が同一の[**ID**]を使用して Thunderbus Server に接続すると予期せぬ動作になることがあるため、複数の Thunderbus Agent で同一の[**ID**]を使用しないようにしてください。
- 一部の OS では、Thunderbus Agent 管理画面起動時、タスクバーに表示されるアイコンが黒くなることがあります。動作に影響はありません。
- 以下の条件にすべて合致する場合、Thunderbus Agent 管理画面の[**基本設定**]で[**プロキシサーバーを使用する**]を[**チェックあり**]にしても、プロキシサーバーを使用した接続は行わずに直接 Thunderbus Server と接続します。
 - プロキシサーバーの接続設定が不正で、プロキシサーバーと接続できない。
 - プロキシサーバーを使用せずに直接 Thunderbus Server に接続することができる。
- HTTP エージェントは、以下の HTTP メソッドをサポートしています。
 - GET
 - PUT
 - POST
 - DELETE
 - HEAD
 - OPTIONS

9. DataSpider Thunderbus コネクタの使用方法

DataSpider Thunderbus コネクタは、DataSpider Cloud から Thunderbus の機能を使用するためのツールです。DataSpider ファイルシステムに各 Thunderbus Agent で設定されたディレクトリをマウントし、スクリプトやエクスプローラなどから各種ファイル操作や読み取り・書き込みなどを行うことができます。

9.1. 事前準備と初期設定

Thunderbus コネクタを使用するには、以下の事前準備と初期設定を行ってください。

9.1.1. Thunderbus Server でのユーザーの作成

管理者ユーザー以外のユーザーで Thunderbus Server に接続する場合、ユーザーを作成して接続するアカウントを作成してください。



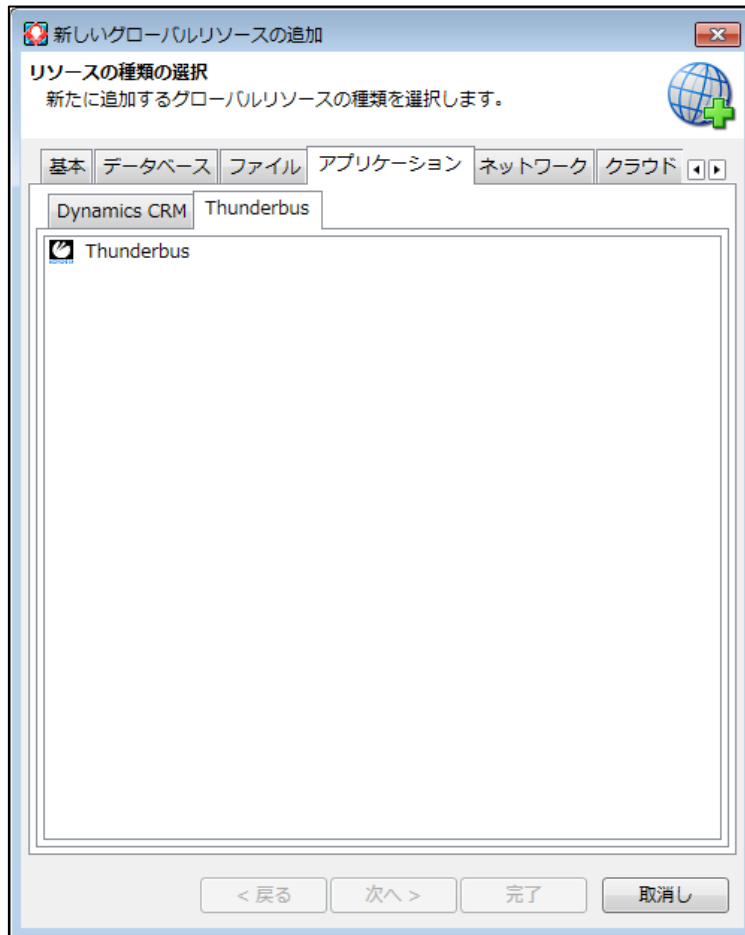
管理者ユーザーでログインする場合は、ユーザーの作成は必要ありません。



ユーザーの作成方法についての詳細は「[ユーザー設定](#)」を参照してください。

9.1.2. 接続設定

1. DataSpider Studio で「コントロールパネル」-「グローバルリソースの設定」を開き、**[新しいグローバルリソースの追加]**を選択してください。
2. **[アプリケーション]**カテゴリの**[Thunderbus]**を選択し、**[Thunderbus]**アイコンをダブルクリックしてください。



3. 入力項目に情報を入力して**[接続テスト]**をクリックして接続ができることを確認してください。



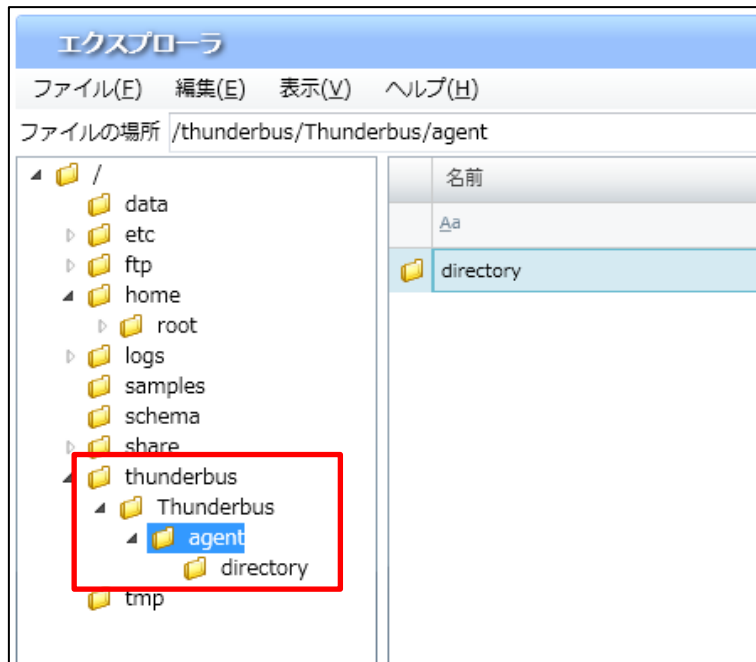
入力項目についての詳細は「[グローバルリソースの設定](#)」を参照してください。

4. **[OK]**ボタンをクリックして設定を終了してください。

9.1.3. 接続の確認

エクスプローラの以下ディレクトリに、Thunderbus Agent で設定されたディレクトリがマウントされます。

- /thunderbus/<接続名>/<エージェント ID>/<ファイルエージェント設定名>



マウントされる<エージェント ID>ディレクトリは、グローバルリソースの[**ユーザーID**]に入力したユーザーにアクセスが許可されている Thunderbus Agent のみとなります。

9.2. グローバルリソースの設定

DataSpider Thunderbus コネクタの機能を使用するには、Thunderbus のグローバルリソースを作成して Thunderbus Server の接続設定を行う必要があります。

グローバルリソースはコントロールパネルの「グローバルリソースの設定」から「アプリケーション」カテゴリ内にある「Thunderbus」を選択して作成してください。



グローバルリソースの作成方法の詳細は DataSpider Cloud のヘルプを参照してください。

9.2.1. 接続設定

グローバルリソースに設定する項目は以下の通りです。

基本設定

項目名	必須/ 省略可	変数の 使用	説明	補足
接続名	必須	使用不可	グローバルリソースの名前を入力します。 設定した値は、DataSpider ファイルシステム内でマウントするディレクトリの名前として使用されます。	

必須設定

項目名	必須/ 省略可	変数の 使用	説明	補足
ホスト名	必須	使用不可	Thunderbus Server のホスト名です。「localhost」が設定されています。	
ポート番号	必須	使用不可	Thunderbus Server のポート番号です。「8443」が設定されています。	
ユーザーID	必須	環境変数のみ 使用可	Thunderbus Server の管理者ユーザーまたはユーザーの[ユーザーID]を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> 入力した[ユーザーID]のユーザーにアクセスが許可されている Thunderbus Agent のみマウントされます。 アクセス許可設定に

				ユーザー設定
パスワード	必須	環境変数のみ使用可	[ユーザーID] に <input type="text"/> したユーザーの [パスワード] を入力します。	

プロパティアクション

項目名	説明	補足
接続テスト	Thunderbus Server への接続確認を行います。	

9.2.2. コンポーネントプールの設定

コンポーネントプールはサポートしていません。

9.2.3. 主な例外

[接続テスト]に失敗した場合に発生する主な例外は以下の通りです。

例外名	原因	対策
InvalidPropertyConfigurationException [<プロパティ名>]が指定されていません。	[<プロパティ名>]が指定されていません。	[<プロパティ名>]を指定してください。
UnauthorizedException ログインに失敗しました。	[ユーザーID]・[パスワード]を使用した認証に失敗しました。	[ユーザーID]または[パスワード]を確認してください。

9.3. 使用方法

DataSpiderファイルシステムの以下パスに、Thunderbus Agentのファイルエージェント設定で設定したディレクトリがマウントされます。


- /thunderbus/<グローバルリソースの**[接続名]**>/<エージェントの**[ID]**>/<ファイルエージェント設定の**[設定名]**>

エクスプローラやスクリプト内の処理からファイルにアクセスして使用することができます。

例：

グローバルリソースの**[接続名]**が「Server」、エージェントの**[ID]**が「Agent」、ファイルエージェント設定の**[設定名]**が「directory」のディレクトリは、以下パスにマウントされます。

- /thunderbus/Server/Agent/directory

 対象のエージェントの**[接続状態]**が**[接続中]**でない場合は、<ファイルエージェント設定の**[設定名]**>ディレクトリは表示されません。

9.4. 仕様制限

9.4.1. セキュリティについて

「/thunderbus」より下にマウントされるすべてのファイル/ディレクトリのセキュリティは、以下の値が使用されます。

- 所有者:対象の[接続名]のグローバルリソースの[所有者]
- グループ: 対象の[接続名]のグローバルリソースの[グループ]
- アクセス権限
 - 読み取り:対象の[接続名]の[リソースの使用]権限
 - 書き込み:対象の[接続名]の[リソースの編集]権限
 - 実行:すべて[チェックあり]



エクスプローラ上でファイル/ディレクトリのセキュリティを変更することはできません。



グローバルリソースを参照できる権限が無い場合、以下のディレクトリは表示されません。

- /thunderbus/<グローバルリソースの[接続名]>

9.4.2. 操作可能なディレクトリについて

以下のディレクトリ以下のファイル/ディレクトリに対して読み取り・書き込みなどの操作が可能です。

- /thunderbus/<グローバルリソースの[接続名]>/<エージェントの[ID]>/<ファイルエージェント設定の[設定名]>

上記のディレクトリの名前変更などの編集はできません。



以下のディレクトリの名前変更などの編集はできません。また直下にファイルやディレクトリを作成することはできません。

- /thunderbus
- /thunderbus/<グローバルリソースの[接続名]>
- /thunderbus/<グローバルリソースの[接続名]>/<エージェントの[ID]>

9.4.3. その他の仕様制限

- /thunderbus 以下のファイル・ディレクトリに対して、「ロック」および「ロックの解除」の操作を行うことはできません。

- グローバルリソースの種別は「デフォルト」の種別のみ使用可能です。「デフォルト」以外の種別のグローバルリソースは作成しても使用されません。

10. アンインストール

10.1. Thunderbus Agent のアンインストール

Thunderbus Agent をアンインストールするには以下の手順で行います。

1. Thunderbus Agent を停止します。



詳細については「[Thunderbus Agent の停止](#)」を参照してください。

2. \$THUNDERBUS_AGENT_HOME/uninst.exe を実行します。または、Windows の「コントロールパネル」-「プログラムと機能」-「プログラムのアンインストール」で「Thunderbus Agent」を選択します。
3. 「はい」を選択するとアンインストーラーが実行され、コンポーネントが削除されます。

Thunderbus for DataSpider Cloud 1.2 ユーザーガイド

第一版 2017.11.28

株式会社アプレッソ

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 19F

TEL : 03-4321-1111
